

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-2-3 高齢者福祉の推進
---------	------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	高齢者福祉課長 杉原 雅行	電話番号	0852-22-5236
----------	---------------	------	--------------

事務事業の名称	軽費老人ホーム運営事業		
目的	(1) 対象	居宅での生活が困難な高齢者	
	(2) 意図	入所施設等を適切に提供する。	
事業概要	軽費老人ホームの入所者の処遇にかかる費用の一部を負担する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	軽費老人ホームの入所者に対する低所得者の割合（補助対象）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		70.00	77.00	78.00	79.00	
式・定義	年間収入180万円以下の入所者数/入所者総数		実績値	69.60	76.20	79.80	80.50		%
			達成率		108.90	103.60	103.30		%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	469,897	506,118
うち一般財源(千円)	469,387	506,118

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度 軽費老人ホーム（ケアハウス）計17施設
 年内収入180万円以下の入所者8,158人/入所者総数10,139人（年間延べ）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

軽費老人ホームの入所者総数のうち、年間収入180万円以下の入所者が占める割合は、H26年度は80.5%と、前年度（79.8%）を上回っており、低所得者に対する入所施設の提供という目的については、達成に向けて概ね順調に進んでいる。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
一部の施設においては空室がある
- ②困っている状況が発生している「原因」
住民に対する周知不足
- ③原因を解消するための「課題」
どのようにして周知を図っていくか

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

軽費老人ホームに対する低所得者の住まいとしてのニーズは依然として高いことから、市町村と連携して軽費老人ホームの周知を図っていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）